

2025年 1月 浜松聖書集会のご案内

(時間: 午前10時 ~ 正午)

○1月 5日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会: 大手 美千代

感話: 溝口 春江

聖書講話: イザヤ書 11章 6~9節

「内村鑑三の初夢」

水戸 潔

○1月12日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会: 武井 めぐみ

聖書講話: ローマの信徒への手紙 5章 12~15節

「ジョン・ロックの信仰について

ー ロック『キリスト教の合理性』から」

笹井あかね

○1月26日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会: 生江 扶左子

聖書講話: ヨハネの黙示録 15~16章

「獣に勝ち歌う者 続いて審判、7つの鉢が注がれる」 武井 陽一

毎日、毎朝おめでとう

溝口 正

すべての人を照らすまことの光があつて世に来た。世は彼を知らずにいた。…
彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を
与えたのである。 (ヨハネによる福音書 1・9~13)

見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの時である。(第2コリント 6・2)

この喜びを持つ者は、新年を迎えて本質的な新しさ味わうことができ、その感謝
と歓喜は倍加されるのであります。内村鑑三は、この喜びの生涯について次によ
うに書きました。

一日は、私どもにとりては短き一生涯であります。朝生まれ、昼働き、夜は
復活の希望をいだいて眠りの床につきます。かくて私どもには1年で365回
の生涯があります。なんと楽しいことではありませんか。 『続一日一生』

キリストの救いの光を全身に浴びながら生きる時、我々は毎日新しく生まれ
て、毎日新しい人生を生きることができるのです。「新年おめでとう」どころでは
なく、「毎日、毎朝おめでとう」となるのであります。こうしてキリストにあるな
らば 新年も、また、毎日も、一日一日が本質的な意味で新しさを獲得するの
であります。なんと楽しいことではありませんか。

闇の生涯を送るか、光の生涯を生きるか。古いままで暮らすか、新しく生まれる
か。それは光であるキリストを受け入れるか否かの一点にかかっていることを、
聖書は告げているのであります。 (1994年1月『復活』第328号)